

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 5月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200205
法人名	タクミ工業(株)
事業所名	グループホーム ベルジ吉岡たやの家
所在地	群馬県北群馬郡吉岡町上野田96番地 (電 話) 0279-30-6060

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミュン100-1B
訪問調査日	平成20年4月23日

【情報提供票より】(20年4月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 2月 1日
ユニット数	5 ユニット 利用定員数計 45 人
職員数	32 人 常勤 17 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 25 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	2階建て 1~2 階部分	3階 建て 1~3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	テレビ電気代1日 52円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300 円				

(4)利用者の概要(4月 11日現在)

利用者人数	45 名	男性	16 名	女性	29 名
要介護1	8 名	要介護2	9 名		
要介護3	20 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	63 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上武呼吸器内科病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人間の協力や連携も活用しながら、ホーム独自に基本的ケアについてのマニュアル作りや学習会に継続して取り組み、ケアサービスの質の向上に努力しているホームである。運営方針として行政や地域とも積極的に関わりを持っていこうという姿勢もうかがえる。管理者は職員の意見や考えを吸い上げながらホームの運営に生かしたいという思いで日常的なケアの実践に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価を謙虚に受け止め、ユニットごとでの話し合いも行き、館内のレイアウトなどは直ぐに改善した。また職員間のコミュニケーションをもとに利用者の把握や問題点の発見を見直していくよう努めるようにした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を職員が理解していくために、すべての職員が自己評価を行なった上でホームとしての自己評価をまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域密着型になり地域との関わりが重要となったため、運営推進会議を開くことで地域や家族との繋がりも深まっているという自覚を持っている。会議では主にホームの実態を理解してもらうことが中心になっているが、参加者の意識を高めるためにあらかじめ10項目ほどの内容を提示し、会議が活発に進行するよう工夫もしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月請求書と一緒に一人ひとりの生活状況を記録したコメントを添えてお便りを発送している。また、めやす箱を設置して家族の意見を気軽に出示してもらっている。意見をいつでも受け、出された意見や希望は早めに対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 積極的に地域との関わりを持つよう日常的に近隣住民との挨拶や公園や図書館の利用もしている。地域のお祭りに参加したり、文化会館主催の作品展にも出品している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一日一回は笑顔を引き出せる対応を心がけよう」という理念を掲げている。この他にも家庭的な雰囲気の中で地域との交流も重視した実践を指針にしている。さらに今年度は法人共通のテーマとして「見守り」を課題に取り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝5つのユニット合同の朝礼を行い、管理者と職員の意見交換を行っている。また、理念の実践に向けてユニットや個人で課題を抱え込まないよう管理者から問いかけや個別の指導も行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型サービスになってからは積極的に地域に出ていくようにしており、散歩での近隣住民との交流をはじめ、公園や温泉に行ったり、地域のお祭りに参加したり文化会館主催の作品展にも出品している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は謙虚に受け止め、ユニット会議でも検討し、現場での改善に活かしている。今回の自己評価は全職員が自己評価した上でまとめており、評価の意義を全体で理解しようという姿勢がうかがえる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族・ホームの職員が参加し、ホームへの理解を深めてもらうことを重点に現状や行事の紹介・報告等を行っている。参加者が積極的に会議に参加できるよう、開催前に10項目ほどの検討内容を提示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは会議以外にも、緊急性のあるケースなどを通して相談をしたり認知症講習の依頼にも応じるなど、日常的な関わりがもてるよう働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には毎月、請求書と一緒にそれぞれの暮らしぶりを伝えるコメントを添えたお便りを発送している。また必要に応じて電話でも連絡をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内にはめやす箱を設置し、いつでも意見を出してもらう工夫をしている。また気軽に電話でも意見や苦情を受けつけ、早めに対応するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の移動や離職者もあつたが、職場内で研修や意見を出しやすい雰囲気づくりをする中で職員も定着してきた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内で毎週月曜日に10分～15分程度の研修を実施し、業務マニュアルの検討や作成を行っている。他にも外部研修に参加しており、学習を継続することで資格取得に向けて職員の意識の向上につながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加しており、中・北毛ブロックのまとめ役をしているため月に1回は交流する機会を設けている。意見交換や勉強会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前には見学や日帰りの体験を経験してもらい、ホームの雰囲気に馴染んでもらうようにしている。満床でなければ体験入所も受けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経歴を大切に、家事や会話の中で教えてもらう関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所相談の時から利用者の思いを把握するようにしている。特に入所初期の段階は本人、家族からの情報集めに努め、困難なことは家族に相談し、職員で検討するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、アセスメントを活用しながら本人の体力や機能の維持のためにどのように支援していったらよいか、月1回モニタリングを行い、本人・家族にも相談し、ユニット会議を開いて職員の意見も取り入れながら計画担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人、家族等に説明し確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じ、タクシーでの受診や諸手続きや制度の申し込みなどの代行を行っている。現状に則して臨機応変の対応をするようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の他、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての方針は、ホームとしての指針を入所時に家族に説明している。実際はその時々確認しながら家族・医療機関・職員で話し合いながら進めている。また実際に家族の協力のもと、医療機関と連携しながら看取りも経験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等個人情報の管理も行われており、一人ひとりのプライバシーを尊重した声かけがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は、それぞれの希望やペースにあわせて支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や職員がプランターや畑で育てた季節の野菜を調理したり、食事の際には職員の一人は一緒に食事を摂りながら会話を楽しむ様子がかがえた。また、利用者がおしゃれなエプロンを身につけ片付けをする姿も見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表も作成されているが、実際には本人の希望や状況に応じて支援している。医療機関の指導で足浴にも力を入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活での役割や楽しみがリハビリに通じていることが多く、掃除やテーブル拭き・食器洗いや植木の水遣り・カレンダーの日めくりや洗濯たたみなどが自然に役割になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物は日常的に行っている。また、中庭で日光浴をしたり、プランターや畑で野菜を育てたり草むしりをしたり戸外で過ごす時間も持っている。個別の外出にも応じ、以前は墓参りにも同行したことがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関には鍵はかかっているが、各ユニットの入口には鍵がかかっている。法人の方針であるため職員も通常は、閉錠しているが、利用者からの希望や状態に応じて個人的に対応したり、開放する時間も設けてはいる。	○	行政によっては実地指導でユニット入口の鍵は身体拘束にあたらないとの見解を出しているということであるが、利用者の鍵をかけないでという声もホームとして認識しており、ホームの重点目標である「見守り」の実践の意味合いからしても、今後も継続した検討を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として、夜間を想定した訓練を年4～5回実施している。運営推進会議を利用して地域の協力も呼びかけていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託している栄養士の指導のもと、食事や水分の摂取量をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どのユニットも食堂を中心に広々とした空間が広がっている。それぞれに個性をもった季節の飾り付けや植木が配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの居室も本人・家族の好みで家具や装飾品が持ち込まれており、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		